

第11回 小田原市ジュニアフットサル大会競技規則

小田原サッカー協会 審判委員会

特記事項

☆ユニホームの確認は、そのチームの最初の試合のみ行う。

☆靴は飴色またはノンマーキング表示があるものに限る。(ノンマーキング表示のない有色の靴底は不可)

☆試合開始と前後半終了の合図は、統一するために大会本部で行う。

ただし、次の2点の状況下においては、審判員が終了の合図(笛を吹く)をしてください。

- ① 前半、後半の終了合図時に行うべきペナルティキックのために、時間は追加される。
- ② 前半、後半終了の合図と同時にゴールに向かってボールは、その結果のみを見極めて終了とする。

大会競技規定

1. 2016/2017年フットサル競技規則による。また、U15以下の競技規則(通達)を適用する(※印)。

但し2～7項は本大会競技規定による。

【用具】競技者および審判員は、あらゆる装身具(めがね、ミサンガなど)を身に着けられない。

但し、スポーツメガネや保護具は、競技者自身と他の競技者を傷つけないものであれば使用できる。

【交代】競技者と交代要員は、いつでも交代ゾーンから交代できる。

【4秒ルール】 ①キックイン、②コーナーキック、③ゴールクリアランス、④直接/間接フリーキックに適用。

(再開は、それぞれ①相手チームのキックイン、②ゴールクリアランス、③と④相手チームの間接FK)
キックオフ・PKには適用されない。

【キックイン】 相手競技者はキックインを行う場所から5m以上離れなければならない。(FK時も同様)

正しい進め方でボールがピッチに入らなかった場合、相手チームの競技者がキックインを行う。

【ゴールキーパー(GK)のプレーに関する確認事項】

1) GKのボールコントロールについて

- ① GKが手で投げる、あるいは足で蹴ったボールが自陣エリアから直接ハーフウェーラインを越えたら反則。
(ゴールクリアランス、パントキック、ドロップキック、直接FK、間接FK、クリアーボール)
再開は、ハーフウェーライン上の任意(どこでも良い)の場所から相手チームの間接FK。(※)
- ② 自陣のペナルティーエリア内で、味方競技者がキックインしたボールを直接手、または腕で受けたら反則。
再開は、反則の起きた場所から最も近いペナルティーエリアのライン上から相手チームの間接FK。
- ③ 自陣のエリア内で、4秒を越えてボールを手や腕、または足でコントロールしたら反則。
再開は、GKがボールをコントロールして4秒を越えた場所(注)から、相手チームの間接FK。
(注：ペナルティーエリア内の場合、最も近いペナルティーエリアのライン上で)

2) ゴールクリアランスについて

GKが手で投げたボールが、ペナルティーエリアを出る前に他の競技者がボールに触れた場合はやり直し。
ボールを離すまでに4秒を越えた場合は反則。再開は、反則の起きた場所から最も近いペナルティー
エリアのライン上から相手チームの間接FK。

3) バックパスの反則について

GKがボールをプレーしたのち、相手競技者がプレー、または触れていないにもかかわらず、
自陣のエリア内で、味方競技者によって意図的にGKに向けてプレーされたボールに
再び触れると反則。再開は、GKがボールに触れた場所(注)から、相手チームの間接FK。
(注：ペナルティーエリア内の場合、最も近いペナルティーエリアのライン上で)

2. 【チームベンチに入れる人数】 役員3名と登録された選手10名までとする。

3. 【試合時間】 予選リーグ6分-1分-6分、決勝トーナメント8分-3分-8分とする。

ランニングタイムとして、ボールがピッチ外へ出てもタイムは止めない。

4. 【タイムアウト】 採用しない。

5. 【キックオフ】 直接得点することはできない。 直接入った場合は、ゴールクリアランスで再開。

6. 【累積ファウル】 採用しない。

7. 【警告、退場】 警告は該当の試合だけに適用する。ただし、退場した競技者は、次の1試合には
出場できない。